

1 もりおかほちまんぐう はいでん 盛岡八幡宮 拝殿

盛岡八幡宮は今から300年以上昔の延宝8年（1680）、第29代南部重信公により建立されました。盛岡八幡宮に祭られている神は、品蛇和気命と第15代応神天皇で、農業、工業、商業、学問、衣食住など人間生活の根源の神として、昔から地域の人々の多大なる崇敬を集めてきました。

明治17年（1884）の盛岡大火などの災害や永年の風雪被害を受けて社殿は再建がくり返され、現在の社殿は平成9年12月に建て直されました。色あざやかな彫刻の施された朱塗りの大社殿が、新しい「盛岡の顔」として堂々たる風格を漂わせています。県下一の大神として、また人々の生活に根ざした信仰や祝い事の拠りどころとして、現在も年間を通して多くの参拝者で賑わっています。

2 てみず や 手水舎

参拝の前に手や口を清める手水舎に使われているのは、「水堀石」といわれる大石です。もともとは岩手郡内北の浦の滝壺にあった石で、流水によって自然にくぼみが形づくられた珍しい石です。明治9年の明治天皇の東北御巡幸の際、これに似た石に水をため罇を置いていたところ、それを天皇が御足を止めて御覧されたとの記録もあることから、明治21年の八幡宮再建時に、八幡町の人びとが水堀石を神社に奉献しました。

3 たかべ じんじや 高倍神社

高倍神社に祭られているのは、磐鹿六雁命です。この神さまは、醤油や味噌などの調味料や料理、飲食店の守り神として知られています。調理を商売にしている人々の守り神として敬われています。この神さまが祭られているのは関東以北ではこの神社だけです。**【例祭】** 毎年6月15日、岩手県内の調理師会の人々によって祭典が行われます。

4 ほうちょうつか 庖丁塚

庖丁が納められている塚です。庖丁は料理をするときもっとも大切な道具。料理人の心を表し、料理に命を吹き込みます。料理人の魂ともいえる庖丁がこの塚に眠っています。

5 こうつうあんぜん 交通安全祈禱殿

車を購入したときに、交通安全をお祈りしてお祓いを受けるところです。この社は「面向不背の社」といって、表と裏のない造りになっています。どちらにも背を向けず、中心を正し、不注意にならないようにとの意味が込められています。

6 もりおかちんじや 社号標「盛岡鎮守」

この「盛岡鎮守」の碑は、皇太子妃雅子さまの曾祖父にあたる海軍大将・山屋他人が書いたものです。盛岡八幡宮のシンボルです。

7 せいどうとうろう 青銅燈籠

盛岡城下の御用職人、藤田善兵衛秀彰と弟、善藏情有の作で、文化9年（1812）城下の庶民によってたてられたものです。南部36代利敬公が「八幡宮」の文字を削り、無理に札の辻に運びましたが、8年後、八幡宮に戻されました。

8 よないみつまさごうぞう 米内光政銅像

米内光政は明治13年3月、盛岡市生まれ。海軍大臣、内閣総理大臣の職についた人で、太平洋戦争の終結に貢献しました。米内光政の文字は米内自身の筆跡です。

9 せいゆうかん 盛悠館

社務所と披露宴会場です。会場は、情緒溢れ落ち着きのある和室と、瀟洒な中にも華やかな雰囲気のある洋室があります。

10 さんしゅうてん 参集殿

結婚式などの控室として使用できる洋室が全部で15室あります。披露宴会場として使う場合は、1階は収容人員200人、2階は収容人員300人の広さになります。各種・展示会会場としても使用できます。



11 すうはいでん 崇敬殿

大小宴会、各種展示会、各種会議場に使用できます。1階に合計収容人員120人、2階に合計収容人員140人の洋室があります。

12 かさもり いなり じんじや 笠森稻荷神社

笠森稻荷神社は八幡宮が建てられる前から八幡山の山頂に祭られていました。神さまは宇迦之御魂命で、五穀豊穡・商売繁盛、さらにできもの守り神として、歴代藩主から一般庶民まで広く信仰されていました。**【例祭】** 毎年8月8日、9日の両日、市内八幡町を中心に崇敬請の人々が参拝して行なわれています。

13 しんほうてん 神宝殿

八幡宮に古くから伝わっている宝物や後世に伝えたい重要な奉納品が数多く保管・展示されています。代表的なものは、脇指、「蛇切丸」の異名をもつ宝刀（盛岡市指定有形文化財）、獅子頭など。**【例祭】** 毎年4月3日。

14 しんめいしや 神明社

祭られている神さまは天照大神です。

延暦の昔、坂上田村麻呂が盛岡の仁王に建てたのがはじまりです。元禄時代には煙草丁（現在の明神町）に、その後八幡山に移されました。明治17年（1884）盛岡の大火により焼失しましたが、昭和43年（1968）明治維新100年を記念して現在の地に祭られました。目光坊の先祖が伊勢にご神体をうけて、盛岡の仁王に祭ったという話が伝えられていたり、神さまを移すときには5尺（約150）くらいを柱を豊代にして、目光坊自ら背負っていったとの言い伝えも残されています。**【例祭】** 8月8日。

15 うのみや 梅宮（安産祈願の社）

祭られている神さまは酒解神、酒解子神、大若子神、小若子神です。寛保元年（1741）、南部23代利親公が人々の子孫繁栄を願って京都梅宮大社の御分霊を祭りました。安産、婦人、醸造の守護神として歴代の藩主から庶民にまで深く信仰を集めてきました。**【例祭】** 毎年4月3日。

16 たいにく えびす 大黒・恵比寿社

大黒様は大きな福袋を肩にかけ、人々に幸

福を運び、農耕の神・縁結びの神さまとして親しまれています。恵比寿様は、右手に釣り竿、左手に大鯛を抱えている姿で知られています。日本国が創られるとき、「日本国は天孫（皇室の先祖）に献上なさるのがよいでしょう」と大黒命に決断させた功績によって一言主神と言われる神さまです。また、海の事に従事されたところから、豊漁の守護神・海の守り神として尊ばれ、さらに海と陸との交流をもたらした商売繁盛の神さまと慕われています。七福神のなかで純粋に日本の神さまは恵比寿様だけです。

17 じゅうにしんじや 十二支神社（生れ年守護の社）

十二支の生れ年ごとにひとつずつ守り神があるとする、土着的な民間信仰が元になっています。子年生まれば出雲神社、寅年生まれば八坂神社、亥年生まれば鳩森八幡神社と、十二支の動物が仕える神を祭る神社が、12社並んでいます。1年に1回、自分の生れ年の神を拝むとよい御加護があると言われていいます。

- 子年生 出雲神社 ●午年生 神明神社
- 丑年生 天照大神社 ●未年生 八雲神社

- 寅年生 八坂神社 ●申年生 日吉神社
- 卯年生 三崎神社 ●酉年生 春日神社
- 辰年生 賀茂神社 ●戌年生 正八幡神社
- 巳年生 大神神社 ●亥年生 鳩森八幡神社

18 たむらりょうさくひ 田村了叟句碑

「芹の水満ことなく減ることなく」という句があります。これは、俳誌「夏草」に発表した代表作のひとつ。了叟は明治40年盛岡市に生まれ、昭和2年高浜虚子の「ホトギス」に入門。昭和5年「夏草」創刊により、山口青邨に師事。「楡の社」「中尊寺馬車」など句集を発表。昭和55年、72歳の生涯を閉じました。

19 がんじゅざん 巖鷲山（岩手山）石碑

弘化5年（1848）、修験者自光坊の屋敷に建立されました。この碑には伝説があります。侍が夜道を歩いていると、大入道があらわれ、侍は刀を切りつけました。ところがよく見るとこの石碑で、刀痕だけが残ったということです。近所の民家にたたるといので、明治26年八幡宮境内に移転されました。

20 めいじてんのう こせいざう こせいひ 明治天皇御聖像・御聖跡碑

どちらも明治9年明治天皇御巡幸を記念して建立。聖像は昭和50年、碑は昭和15年に建てられました。御聖跡碑は、当神社の馬場にて、明治天皇が県内で産まれた馬を天覧してくださったことを記念したものです。

21 もりおかてんじんじや 盛岡天神社

祭られている神さまは学問の神さまである菅原道真公です。八幡宮が造営される以前からこの地に祭られていましたが、寛文年間藩の命令によって花垣（現在の天神山）へ移されました。毎年、受験シーズンには、合格祈願の参拝者でたいへん賑わっています。昭和60年（1985）社殿を建立し、お祭りしました。

22 みこいでん 神輿殿

祭典のときの神輿渡御に使われる神輿をおさめています。八幡宮には延宝9年（1681）から現在まで300年以上も用いられてきた旧神輿と、漆仕上げの上に螺鈿をほどこした東北唯一の濃厚な新神輿があります。

23 けんこうじんじや 健康神社

肺神、肝神、腎神、心神、脾神といった五臓の神のほか、瘡神、中風神、健康神、生命神、葉神など、健康にまつわる神々が祭られています。足腰の健康を願って、わらしを奉納していく参拝者もいます。

24 あくに 阿国稻荷神社

芸能上達の神様をお祀りしています。

25 えんじゅぼ 縁結美神社

男女の縁、人と人の縁を結び神社として良縁を願う人達が多く訪れます。赤い結び紐を境内に結び、良縁成就、恋愛成就を願います。

26 いわて こくじんじや 岩手護国神社

戦争で亡くなった岩手県に關係する人々の魂をお祭りしている神社です。始まりは、明治2年、当時の県知事である南部利恭によって、岩手郡東茶野畑（現在盛岡市）に社殿が建てられたことによります。そのときお祭りしたのが、明治維新のときに国のために働いて亡くなった勤王の志士である目時と中島の2柱です。その後、戊辰・西南の役、

日清・日露、第一次世界大戦、大東亜戦争にいたる多くの戦争において戦没されたおよそ35,778柱の英霊をお祭りしています。明治39年盛岡八幡宮境内に移され、昭和14年に「岩手護国神社」と改称しました。**【例祭】** 春季慰霊大祭は毎年5月3日に盛大に行なわれます。月次祭（毎月1日）、命日祭（毎月15日）、歳旦祭（1/1）、春季慰霊大祭宵宮祭（5/2）、春季慰霊大祭（5/3）、戦没者追悼平和祈願祭（8/15）、秋季慰霊大祭・昭和天皇行幸啓記念祭（10/1）、創建記念祭・維新十柱祭（11/1）など。

26 せんぼつしゃ いひんかん 岩手県戦没者遺品館

戦争で亡くなった方の遺品が展示、保管されています。

【見学】 事前予約で見学できます（無料）。開館時間10:00～16:00。毎週月曜日休館。

27 れいじゅぼ ほうあんてん 霊璽簿奉安殿

岩手護国神社に祭られている、戦没者と遺族の名前を記した名簿が奉納されています。

28 へいわ とう 平和の塔

戦没者の魂を鎮め、平和を願う心の象徴として建てられました。